

# 滋賀県高P連会報

Mother Lake

母なる湖・琵琶湖。—あずかっているのは、滋賀県です。

〒520-0844 滋賀県大津市国分一丁目15-1

滋賀県立石山高等学校内

TEL/FAX : 077-599-0506 (事務局専用)

Eメール shiga-koup@river.ocn.ne.jp

ホームページ <https://www.shiga-koup.jimusho.jp/>

## 滋賀県公立高等学校PTA連合会

### 三方よし



高P連 会長  
前川 久幸  
(石山高校 会長)

平素よりPTA活動に際しまして、ご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染症、社会上の位置づけが5類に移行し、社会生活がようやく以前の日常を取り戻してきたように思っています。

しかし、地球温暖化による新たな感染症リスクの増大や、世界では様々な地域で地政学的なリスクの高まり、ITテクノロジーが急速に進化するなど、社会の変化はますます複雑で先行きが見通せない時代になっています。

さて、「滋賀の教育大綱」をご存知でしょうか。時代の変化にたくましく向き合い、持続可能な社会づくりに参画する人づくりのため、24年4月から5年間の県教育方針と施策の体系を示す「第4期滋賀県教育振興基本計画」として策定されました。

施策には3つの柱(①夢と生きる力を育む ②学びの基盤を支える ③みんなで学びに関わる)があり、それぞれに目標項目が掲げられています。目標に向けて、少しでも貢献できるPTA活動を考えて行きたいものです。

その活動を検討する上で役立つヒントや教材が掲載されているサイトが、県教育委員会から提供されています。参考にして頂ければと思います。

(滋賀県学習情報提供システム) <https://www.ninet.jp/>

最近、アタツチメントという言葉をよく耳にします。お互いに頼ったり頼られたり、助け合っている関係、人とのつながりで得られる安心感は重要です。そのことを考えさせられた物語に最近出会いました。

24年本屋大賞受賞作品「成瀬は天下を取りに行く」です。物語に登場する大津市のヒロイン成瀬あかりは、奇想天外なキャラクターで、何かにチャレンジすることを良しとしている人物で、どんな小さいことでもチャレンジするのがモットーのようです。そんな成瀬の周囲の人たちは、新しい価値観に気がつき、影響を受けていく物語です。

しかし、成瀬は、学年が上がるにつれ、周りから孤立していくのですが、幼馴染とのつながりが、成瀬の「安心の基地」となり、マイペースに生きていけているのではないかと感じました。私はこの物語を読んだとて、も元気をもらいました。

最後になりましたが、教育現場を支えてくださっている先生方PTA会員の皆様と共に、生徒さんたちが安心して学び、成長できる環境づくりに取り組んで参りたいと思います。

PTA活動が「安心の基地」に繋がっていきまますよう、今後とも、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### みんなで関わるPTA活動



滋賀県教育委員会 教育長  
福永 忠克

滋賀県公立高等学校PTA連合会会員の皆様には、日頃から子どもたちの健やかな成長と教育活動の充実のため、御尽力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

学校現場では、人と人が対面し、語り、学び合う日常を取り戻しつつあります。コロナ禍を経て私たちは、人と人とのつながりの大切さを再確認しました。保護者と教職員が協力して子どもたちの育ちを支えるPTA活動にみんなで関わることで、一人ひとりの人生の充実や、皆さんの幸せの実現につなげていくことの重要性にも、改めて気づかされたところです。

こうした中、滋賀の教育の基本指針である「滋賀の教育大綱(第4期滋賀県教育振興基本計画)」が本年度スタートしました。未来を拓く心豊かでたくましい人づくりを基本目標として、子どもを真ん中に置いた県政、教育施策を推進します。社会のすべての人々が、自分や相手、

地域社会それぞれに対して愛情を持って教育に取り組むことで、自分を大切に、相手を尊重し、地域に誇りと愛着を持つことができる人づくりを目指します。

各県立高等学校においては、多様な生徒一人ひとりの学びを支えるために、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域住民や産業界など地域の主体との連携・協働を推進するコーディネート配置や、学校運営協議会の設置などに取り組んでおります。地域課題の解決に向けた探究的な学びを展開するなど、地域と連携・協働した学校づくりを推進します。皆様のお力添えをいただきながら、未来を担う子どもたちが「滋賀で育つてよかった」と実感できるように、取り組んで参りたいと考えております。

これまでもPTAの皆様には、地域・家庭と学校をつなぐ重要な役割を担っていただいております。誰一人取り残すことのない教育の実現に向けて、PTA活動の意義を見つめ直し、PTAのネットワークを生かしたより良い取組が進められますよう御期待申し上げます。

結びに、各校PTA、滋賀県公立高等学校PTA連合会の御発展と、会員の皆様のさらなる御活躍を御祈念申し上げます。

地域社会それぞれに対して愛情を持って教育に取り組むことで、自分を大切に、相手を尊重し、地域に誇りと愛着を持つことができる人づくりを目指します。

令和5年度

P T A 功 勞 表 彰 受 賞 者 名

(敬称略)

高P連会長表彰状受賞者(28名)

伊香 虎姫 米原 長浜北星 長浜北 彦根工業 彦根翔西館 能登川 日野 八日市南 八日市 八幡 甲西 玉川 信染 甲南 水口東 国際情報 湖南農業 草津東 東大津 瀨田工業(全口制) 石山 膳所 北大津 安曇川 高島

那須 渡辺 久木 春日 大塚 木戸 吉川 寺田 石井 一木 山本 川部 米津 榎ひとみ 奥野由希子 奈良美 頓宮正則 中森辰徳 田中佐知子 西村弥生 服部 谷口淳子 村木正典 瀨野剛史 道脇ゆかり 水波陽子 杉浦寛之 足立昌人

教育長感謝状受賞者(11名)

伊吹 長浜農業 河瀬 彦根東 八幡商業 八幡工業 石部 水口 守山北 守山 大津

堤 影山 山本 成瀬 西浦 辻美和子 村嶋佳修美 三木修平 阿部百合子 前田政子 森田文

令和5年度 高P連広報紙コンクールの選考結果

1. 選考された広報紙

令和6年6月7日(金)開催の高P連第1回評議員会において表彰。



滋賀県立虎姫高等学校 [虎高P T A 通信 No.153]



滋賀県立河瀬中学校・高等学校 [志成 Vol.114]

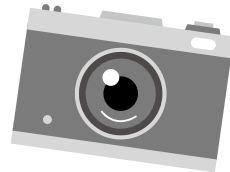


滋賀県立守山中学校・高等学校 [守中高P T A 新聞 第126号]

2. 近畿大会・全国大会について

次の1紙は、近畿地区高P連広報紙コンクールにおいて最優秀賞となり7月15日に開催される近畿地区高P連京都大会で表彰されます。

最優秀賞……滋賀県立虎姫高等学校 [虎高P T A 通信 No.153]



令和6年度 高P連役員等一覧

1 滋賀県高P連理事会役員				
会 長	湖 西	石 山	前 川	久 幸
副 会 長	湖 北	長 浜	鹿 城	律 人
(3名)	湖 東	彦 根	志 連	正 樹
	教 員	石 山	近 藤	敏 夫
理 事	湖 北	米 原	松 田	正 哉
(10名)	湖 東	河 瀬	本 田	真 司
	中 央	八 日 市	深 尾	浄 量
		野 洲	椎 葉	紘 範
	湖 南	甲 西	北 野	真 真
		信 楽	中 村	佐 智 江
	湖 西	安 曇	水 艸	治 樹
		北 大 津	浅 尾	か お り
	教 員	草 津	平 井	忠 美
	教 員	八 幡 商 業	松 村	友 二
監 査 委 員	中 央	八 日 市	竹 内	基 恭
(2名)	湖 南	湖 南 農 業	武 市	美 紗

2 地区別研修連絡協議会幹事				
湖 北	長 浜 北	鹿 城 律 人		
湖 東	彦 根 工 業	志 連 正 樹		
中 央	八 日 市	竹 内 基 恭		
湖 南	草 津	佐 々 木 真 樹		
湖 西	安 曇 川	水 艸 治 樹		

3 令和6年度滋賀県公立高等学校P T A 会長									
湖 西	高 島	川 島	美 穂	徳 樹	湖 南	石 部	黒 岩	京 史	剛 徹
	安 曇 川	水 上	田 昌	治 治		八 幡	大 濱	頭 壽	紀 基
	堅 田	上 田	尾 か	お り		八 幡	七 里	内 基	量 之
	北 大 津	浅 尾	見 順	子 恵		八 日 市	竹 深	尾 定	克 司
	大 津 商 業	勝 見	村 雅	善 樹		日 野	藤 久	野 野	頭 恵
	膳 所	若 前	林 川	久 幸		能 登 川	野 瀨	阪 理	正 樹
	瀨 田 工 業	山 崎	ゆ かり	美 治		彦 根 東	野 北	志 連	英 樹
	瀨 田 工 業 (定)	安 里	恵 智	治 真		彦 根 工 業	志 青	木 佳	弘 人
	東 大 津	清 水	智 子	純 紗		愛 知	青 木	林 佳	樹 弘
	草 津	佐 々 木	純 子	美 紗		河 瀨	小 鹿	林 佳	律 人
湖 南 農 業	武 田	美 亮	子 子	長 浜 北	小 鹿	中 嶋	誠 人		
守 山	染 田	亮 子	子 子	長 浜 農 業	長 浜 北	山 内	真 人		
守 山 北	北 脇	す み よ	知 枝	米 原	松 田	正 哉	司 之		
栗 東	小 谷	左 幸	枝 範	伊 吹	伊 藤	淳 司	香 子		
国 際 情 報	平 松	幸 枝	範 和	虎 姫	高 吉	橋 康	優 子		
野 洲	樫 原	智 隆	司 江	伊 香	高 吉	村 優	子		
水 口 東	山 下	英 忠	司 江						
甲 南	大 隅	村 佐	智 江						
信 楽	中 本	涼 香	香 子						
玉 川	山 本	涼 香	香 子						
甲 西	北 野	真 真	真 真						

### 令和6年度 第1回高P連評議員会開催

令和6年6月7日(金)第1回高P連評議員会(総会)が、彦根勤労福祉会館で開催され、各単位PTAより会長と校長が出席されました。

開会行事に続き功労者表彰式が行われ、令和5年度のPTA会長11名に教育長表彰として濱秀樹 生涯学習課課長から感謝状と記念品が、28名に連合会長表彰として 前川久幸 連合会長から表彰状と記念品がそれぞれ贈呈されました。

また、広報紙コンタールの優秀校として、入賞校3校に、前川久幸 連合会長から表彰状と記念品がそれぞれ贈呈されました。

その後、議事に移り、令和6年度連合会長に 前川久幸 石山高등학교 会長が令和5年度に引き続き正式に承認され、すべての議案が原案どおり承認・可決されました。



### 変革



高P連 副会長  
鹿城 律人  
(長浜北・会長)

新年度が始まり、約3ヶ月が過ぎました。1年生は少し学校に慣れ、3年生は進路などの目標達成に向けて歩み始めている頃かと思えます。今年度、滋賀県公立高等学校PTA連合会副会長を拝命いたしました。長浜北高等学校の鹿城と申します。皆様の力をお借りしながら精一杯努めてまいりたいと思えますのでどうぞよろしくお願い致します。

昨今、PTA活動に対する考え方や在り方がいろいろと議論されているように思えます。「PTAを解散した。」というところも珍しくはないでしょう。PTAの役員に選ばれた…もう嫌で嫌でしかない。1946年にPTA設置が推奨され、1947年にPTA結成から約77年が経ちました。時代は大きく変化し、ライフスタイルも激変したと思えます。しかし、いつの時代も私たち保護者は、子ども達に健康で逞しく育ってほしいと願う気持ちは変わらないと思えます。PTA活動の在り

方を少しでも議論できればと思えます。

教育現場を支えてくださっている先生方とPTAの会員の皆様と共に未来を担う子ども達が安心して学び、成長できる環境づくりに取り組んでまいりたいと思えますので、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 子供のために何ができるのか



高P連 副会長  
志連 正樹  
(彦根工業・会長)

今年度、県高P連副会長を務めます、彦根工業高校の志連です。日頃はPTA活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。初めてのPTA連合の仕事となり、責任の重さを感じておりますが、一年を通して、様々な方と出会い知見を広めつつ、何が出来るかを探りながら、楽しむ事も忘れず活動してまいります。

昨今、PTA活動に対しては様々な意見もごございます。これからの時代の変化に伴い、求められる事も変わってくると思えます。ですが、根底にある

子供のために何が出来るのかというのは変わらない事でありま

す。子供のために何かをしていくには、まずPTA活動が参加しやすく、敷居を低くすることが大切だと思っております。保護者様に少しでも多くPTA活動に参加して頂き、それが出来る環境を作り、子供たちとの接点を多く持つ事により、より子供たちに安心感を与えられるよう努めます。

至らない点もあると思えます。まだまだ手探りのところもござ

子どもたちのために  
平素はPTA活動への温かいご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。今年度副会長を務めます石山高등학교の近藤です。どうぞよろしくお願致します。



高P連 副会長  
近藤 敏夫  
(石山・校長)

さて、高P連の目的の一つに「高等学校教育の充実発展を図り、その振興に寄与する」とあります。家庭と学校がそれぞれの担っている役割を果たしつつ、一緒に子どもたちのより良い成長の場を作り上げ、健全育成に努めたいものです。変化の激しい時代で、先行き不透明な時代ではありますが、子どもたちにとって一度きりの高校生活、有意義に過ごせる環境を作ってあげることが私たちの願いでもあります。

コロナ禍による活動の自粛やスリム化を行った結果、以前の活動の見直しやブラッシュアップに悩みながら活動されていますが、各校の特色や地域の風土を生かしながら、更なる活動の充実をお願いしたいと思います。今後ともPTA活動へのご支援とご協力をよろしくお願い致します。

